

下関港から 10 隻が一斉出港

— 山口県以東機船底曳網漁業船団 —

安全操業第一で大漁を目指す

沖合底曳網漁の解禁に合わせ、8 月 15 日、山口県以東機船底曳網漁業協同組合に所属する漁船 10 隻が、拠点とする下関漁港から一斉出港した。出港に先立ち、航海安全と大漁を祈念する出港式が港で行われ、乗組員の家族や関係者で出港を盛り上げた

■ 出港式

出港式には、前田晋太郎下関市長と江島潔参議院議員が出席したほか、多くの漁港関係者らが出席した。はじめに山口県以東機船底曳網漁業協同組合の宮本洋平組合長から「下関の基幹産業としての役割を果たし、地域に根付いた持続可能な産業として発展していけるよう頑張っていく。今シーズンも安全操業第一で法令順守の下、下関漁港に多くの魚を水揚げしたい」と、あいさつが述べられた。

■ 22 人の技能実習生を紹介

インドネシアから来日した第 13、14 期技能実習生の 22 人が登壇し、一人ずつ紹介された後、代表者が「一生懸命実習に取り組み、たくさんの魚を捕って漁港に帰ってくる」と抱負を述べた。

■ 萩市・見島沖合～長崎県対馬周辺海域で来年 5 月末まで操業

式典のメインイベント鏡割りと万歳三唱が行われ、大漁旗を掲げた漁船 10 隻が出港スタンバイすると、下関市役所吹奏楽団による演奏の中、家族や漁港関係者が大きく手を振って、安全航海と大漁を祈った。そして全船が、見送りに来た人たちに汽笛で応えながら一斉に出港した。

沖合底曳網漁は、山口県以東機船底曳網漁船 2 隻が 1 組となり、萩市の見島沖合から長崎県対馬周辺までの海域で来年 5 月末まで操業する。拠点とする下関漁港が水揚げ日本一を誇るアンコウをはじめ、アカムツ、カレイ、レンコダイなどを漁獲する。